資料１

平成２７年度　西胆振保健医療福祉圏域連携推進会議
議論の整理

平成27年11月19日

Ⅰ　議論の経過

１　会議開催の趣旨

○　第１回において、平成２６年６月に成立した地域医療介護総合確保推進法により、都道府県は医療法の中で地域における効率的かつ質の高い医療提供体制を確保するために、将来あるべき姿を示す地域医療構想を医療計画の一部として策定することが定められたことが説明された。

○　この地域医療構想の策定に当たり、北海道では地域の状況を踏まえた構想となるよう策定の段階から地域で地域医療構想調整会議を設置し検討を行うこととしており、当圏域においては、当会議で地域医療構想調整会議の役割を担こととした。

２　説明事項

○　2025年の医療提供体制を描く地域医療構想の策定について

○　西胆振構想区域地域医療構想について

検討体制（当会議を地域医療構想調整会議と位置付ける）、議論（合意）が必要な事項（①２０２５年における４病床機能別の病床必要量、②２０２５年における医療提供体制を実現させるための課題抽出・施策検討、③地域包括ケアシステムの構築や高齢者の住まいの対策など市町村の役割、④医療介護総合確保基金事業を活用した事業の提案）及び検討スケジュールについて

○　住み慣れた地域での継続的な生活を可能とするための市町村での検討について

○　医療機能別病床数の推計について

○　西胆振圏域の高齢者の状況について　等

３　主な意見

○　この地域で2025年までに必要なのは回復期。平均在院日数を考えても、回復期、慢性期は非常に大切で、この地域の医療機関が協力して、役割を担っていくことが非常に重要。

○　この地域から圏域外（札幌）への流出が10％程度。医療機関同士の連携の効果と確信。2025年に向け各医療機関の協力により、この地域で完結できる医療を目指す。

○　地域の医療、介護をどうしていくか、街づくりをどう構築していくか非常に重要な問題と認識。昨年から行政と意見交換を実施。

○　医療・福祉関係者と行政が意見交換しながら、今後のことを進めることは必要。非常に良い機会。

○　自院の将来ビジョンと地域医療構想とどう整合性をとって地域の中の医療機関としてやっていくのか今後の課題。

○　慢性期の医療機関がレベルアップして、急性期の医療機関に応えていくかが最大の課題。

○　在宅医療に取り組む医師を増やす事業を室蘭医師会で取り組む予定。

○　医療と介護がうまく連携し介護施設でも看取りができる体制を整えることにより、高齢社会の医療ニーズに貢献できると考える。

○　街が元気になっていくためには、子供、周産期、高齢者医療とか、５疾病５事業をどのように進めていくのか、この地域の医療として支えていくのか考えていくことが必要。

Ⅱ　開催の経過

第1回（平成27年7月29日）

地域医療構想について